

周囲に流されず進路は自分で

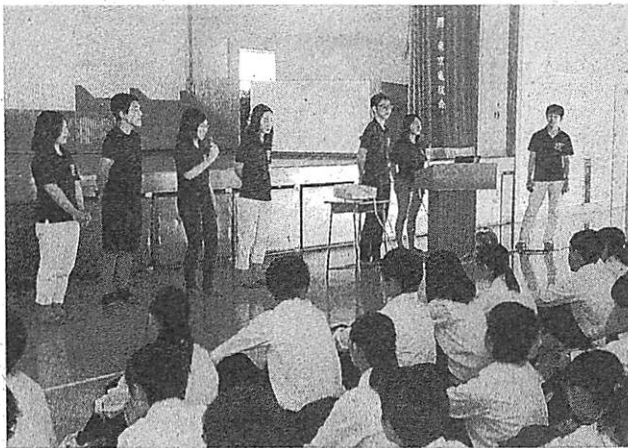
海外大学への留学生が酒東高でワークショップ

酒田市の酒田東高校(諸原正巳校長)に7日、海外の大学に留学している学生7人が訪れ、生徒へのワークショップを通じて、留学の魅力や受験勉強の方法などを紹介するとともに、周囲に流されず自分で進路を選ぶ大切さを訴えた。

現役の留学生や教員らでつくるNPO法人「留学ファエロシップ」(本部・兵庫県神戸市)が今月4・19

日、全国の高校など1カ所を巡っている「キャラバン隊」の一環。酒田市と東京都で英語塾「J・P・R・E・P 斉藤塾」を展開している斉藤隆代表の仲介で、昨年度訪れたのは、同NPO法人代表理事で、米国ハーバ

酒田東高の1、2年生に留学の魅力などを語った留学生たち(奥)



ード大一年の高島駿輔さん(19)＝大阪府出身、灘高卒＝をはじめ、18歳から20歳の米国やカナダの大学への留学生7人。

体育館で開かれた全体会では、酒田東高の1、2年生計約400人に、留学生2人が体験談を語った。

このうち今春に熊本県立熊本高を卒業し、今年9月から米国マサチューセッツ工科大に進学する森本優貴美さんは「ものづくりに興味があり、研究者になりたいが、日本の大学では4年生になってもあまり専門的な研究をできないと知り、待てないと思って留学を決めた」という。そして、周囲に留学経験者がほとんどいない中で、自分で情報を集め、教師ら周囲に支援を求めた経験を示し、「目的を達成するには自分の努力と、周囲を巻き込む力が必要」と訴えた。

酒田東高1年の村上大樹さん(16)は「歯科医を目指している。留学は大変なことだと思っていたが、身近に感じ、選択肢の一つに入った」と話した。

留学ファエロの高島さんは「留学の情報は中央に集

中しているため、キャラバンは地方にも情報を広める狙い。周囲に流されず、自分で進路を決める主体性を大切にしたい」と、仲介した斉藤さんは「留学を身

近な選択肢の一つとしてはいい。特に米国の大学は、高校の成績を重視するなど日本の地方からは比較的にしやすい。偏差値偏重になりがちな入試以外にも選はある」と話した。

留学ファエロは8月、留学に必要な作文(エッセイ)のテクニックなどを学生が台演も行う。詳細は同NPOホームページ参照。